

大雨に備えて安心

土のうステーションを設置します

近年、「ゲリラ豪雨」といわれる短時間で局地的に降る大雨や、台風などによる浸水被害が発生しています。

市では、浸水被害の軽減を図るため、これまでの土のうの配布に加えて、新たに「土のうステーション」を地域に設置します。

Q1 「土のうステーション」とはどのようなものですか？

A 災害時に行政ができることには限界があります。そのため、被害をできるだけ少なくするには、行政の対応とともに、地域みなさんに自ら行動していただくことが重要になっています。

浸水は、早めに対策を行うことで、被害を少なくすることができます。大雨等のとき、地域みなさんが自由に使える土のうの置き場が、「土のうステーション」です。

浸水被害の防止など必要なときに、自分で土のうを運んで設置していただきます。土のうステーション1基に、10kgの土のうが約100袋入っています。



幅 1.2m×奥行き 0.8m×高さ 1m

Q2 土のうステーションの設置や管理は だれが行うのですか？

A 土のうステーションは市が設置し、土のうの補充や、壊れた時の補修は市が行います。地域みなさんには、清掃や点検などの日常の管理や、土のうを使用した後市へ連絡をお願いします。

Q3 どこに設置するのですか？

A 設置場所は、公共施設の敷地など、夜間や休日などいつでも土のうを取りに行ける場所のうちから、地区コミュニティと協議の上決定します。

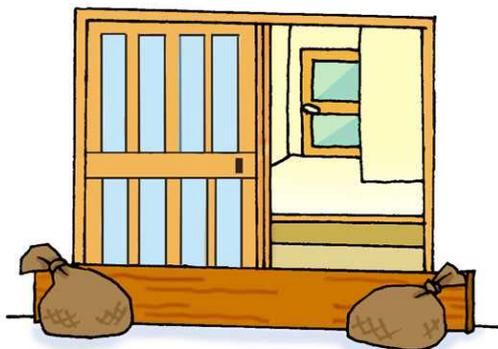
Q4 土のうステーションの土のうだけで足りるのですか？

A 土のうステーションは、地区コミュニティごとにあらかじめ土のうを置いておくことで、初期対応等に活用していただくものです。

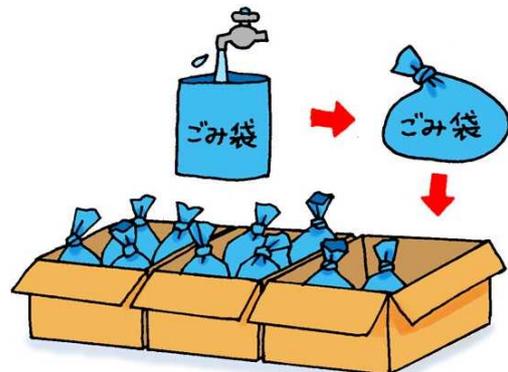
大雨等のとき、市では、地域のみなさんから連絡を受けて、土のうを配布していますので、土のうステーションの土のうと併せてご活用していただくことで、より浸水被害が軽減できると考えています。

Q5 土のうの使い方がわからないのですが？

A まずは、玄関や、床下の換気口など、自宅のどこから浸水するのかを把握しましょう。止水のためには、土のうを隙間なく積み上げる必要がありますが、一般の土のうでは20kg、土のうステーションの土のうでも1袋10kgと重いので、たくさん運ぶのは大変です。板やブルーシートなどを組み合わせる方法が効果的です。



土のうと板を使った方法



土のうの代わりに、ごみ袋に水を入れたものとダンボール箱を使う方法もあります

お問合せ 〒569-0067 高槻市桃園町2番1号

●土のうステーションについて

都市創造部 下水河川企画課（市役所本館7階）

TEL：072-674-7432 FAX：072-675-3252

●地域の防災訓練についてのご相談

危機管理室（市役所本館4階）

TEL：072-674-7314 FAX：072-675-8184